

サブリミナル効果をスポーツに生かす

Application of subliminal effect to sports

1K05B234

指導教員 主査 正木宏明先生

山家 友明

副査 山崎勝男先生

【序論 本論文の主張と展開】

本研究では、サブリミナル効果がスポーツの領域に活用される可能性について検証していく。今回の論文では学術的にサブリミナル効果を見つめ、的確な情報を世間に提供することを一つの目的としている。そして第二に、サブリミナル効果の知見を踏まえ、それが現代スポーツの現状下で注目されうるものだとすることを主張していく。その主張をするにあたって、現代スポーツが抱える問題を分析し、その状況下でどのような位置をサブリミナル効果がとれるのか、論じていく。

【第2章 サブリミナル効果について】

サブリミナル効果 (effects of subliminal perception) とは、意識できない領域 (閾値下) で受けた刺激が、受け手に及ぼす影響のことである。サブリミナル効果という言葉には、さまざまな内容を伴った多くの種類のサブリミナル効果が含まれている。視覚や聴覚を対象とした研究が多いが、嗅覚を用いたサブリミナル効果もある。サブリミナル効果は広告の領域で利用され、社会問題とまでなった存在である。だが、トゥラペーら(1996)のメタ分析によって、サブリミナル広告の効果は、購買行動にまで影響を及ぼすものではないと言われている。もちろんこれはサブリミナル広告に限った知見であるので、全てのサブリミナル効果がそうではない。

【第3章 サブリミナル効果の検討】

サブリミナル効果については、批判的見解も多い。メリクル(1998)は、市販のサブリミナル自助テープを調べたが、メッセージが埋め込まれている事実を確認できなかったと報告してい

る。また、福田は、認知心理学的アプローチから、サブリミナル効果の疑わしい点を提示している。

【第4章 現代スポーツの現状】

スポーツの分野に生かすサブリミナル効果は、現在研究されている中にも効果が実証されているものが何点か存在する。バージ(1996)は、年寄りに関連する先行刺激を受けた被験者の行動が、そうでない被験者より遅くなる傾向になることを発見した。また、ハンクラ(2008)は、サブリミナル効果がモチベーションや反応速度に影響を及ぼすことを実験によって主張した。

現代スポーツでは、記録の限界、勝利至上主義、遺伝子ドーピングといった深刻な問題を多く抱えている。勝たなければ生活のできない現状のスポーツの姿は、見直されるべき段階に達している。

【第5章 サブリミナル効果が注目される日】

サブリミナル効果をスポーツの世界に活用するために、必須となる2点の条件をここでは提示している。1点目は、サブリミナル効果の一般認識を改めること。2点目は、現代スポーツの形を改めることである。現在のスポーツ界でサブリミナル効果を活用することは、今ある問題を助長してしまう可能性があるため、

【最終章 最終考察】

今回はスポーツの世界にサブリミナル効果を生かすことに的を絞って検討してきた。その結果、過去に社会問題にまで発展したサブリミナル効果が、再び実社会に登場することは難しいと判明した。サブリミナル効果の運動への応用に関する研究例が乏しいこと、スポーツが根本

的に変革を迫られている状況だということから、サブリミナル効果がスポーツの世界で活用されるのは近い将来のことではないと考える。しかし、今回の検証で、サブリミナル効果がスポーツの世界に活用されることは、全くの夢物語ではないことも同時に判明した。第5章で述べた2点の条件が満たされたとき、サブリミナル効果はスポーツの世界に有効活用される。